

ソーシャルイベント研究会レポート（2月1日）

今回の研究会は、政策提言「東北復興博覧会」研究会の皆さんと合同で、大船渡津波伝承館を訪問した。

- ・ 日 時 平成 27 年 2 月 1 日（日）14：00～15：30
- ・ 会 場 大船渡津波伝承館

※大船渡津波伝承館の齋藤賢治館長の撮影した大津波当日の映像や、大船渡、陸前高田等の被災状況、復興の進捗状況などの情報が、下記アドレスよりご覧いただけます。

<http://ofunato-tsunami-denshokan.jimdo.com/>

facebook ページ <https://www.facebook.com/ofunato.tunami.denshokan>



【出席者】13 名

座長：小林政則（イベント支援ネットワーク）

天野栄司（パソナ）、内田なお子（昭栄プリント）、沖佳保里（コブタカンパニー）、小野洋平（CUE）、鍛冶川直広（陸前高田市観光物産協会）、加藤淑子（エンコーポレーション）、川原洋介（乃村工藝社）、佐藤信彦（NHK エンタープライズ）、下村卓爾（パソナ）、福井昌平（コミュニケーション・デザイン研究所）、宮地克昌（東京観光専門学校）、師岡文男（上智大学）



▲政策提言「東北復興博覧会」研究会では、1月31日（土）・2月1日（日）の両日、陸前高田市と大船渡市の復興状況の視察や、地元で復興に携わる皆さんの情報収集等を行うツアーを実施。カリキュラムの最後に、大船渡津波伝承館を訪問した。

内 容

齋藤賢治館長は、東北の銘菓「かもめの玉子」を製造販売する、さいとう製菓(株)の元専務取締役。東日本大震災時に大津波の被害を受けた同社を2013年に退社後、本社の一角に大船渡津波伝承館をオープンして、津波の恐ろしさといち早く避難することの重要性を伝え続けている。

プレゼンテーションでは、齋藤館長が撮影した震災中の映像から、避難した高台で撮影した大津波に襲われるリアルな映像を視聴し、被害の状況と悲惨さ、避難の大切さ、被災後の復興の現状などの解説が行われた。

■「津波が来る！逃げろ！」

映像の冒頭は震災で激しく揺れている、さいとう製菓(株)のオフィスの映像。激しい揺れを受けながら撮影者である齋藤館長の「津波が来る！逃げろ！」と従業員に指示するリアルな声も記録されている。1960年に発生したチリ地震による津波を経験している齋藤館長は、地震発生から20分から30分後に津波が来ると、従業員にいち早い避難を促した。



■社屋が見える高台からの地獄絵

齋藤館長は避難してからも撮影を続け、社屋が大津波に襲われる様子を高台から記録。震災後44分で大船渡の市街地が津波に飲み込まれてしまった様子が生々しく映し出されている。鉄筋コンクリートの社屋は流されこそしなかったものの、海から押し寄せる家やクルマで壊滅的な状態に。

■あなたに助かってほしいから

岩手日報の調査によると、この大津波で命を落とした人の40%が「逃げなかった」、19.5%が「避難の途中」と報告されている。適切な避難さえしていれば、亡くなることは避けられたと齋藤館長は語る。大船渡津波伝承館は「あなたに助かってほしいから」というメッセージを、後世に伝えるために活動をしている。



大船渡津波伝承館でのプレゼンテーション終了後、大津波に飲み込まれる様子を撮影した現場も視察。



さいとう製菓(株)の社屋も解体されて行政による再開発と復興が進められている。

齋藤館長のご友人で、仮設店舗で営業する「理容室ニュー清水」も訪問。津波で流された店舗の状況や、仮設店舗ができるまでのプロセスなどをご店主の清水康雄さんにうかがった。



以上